

千葉大学 Rising Chiba University

グローバル人材の育成に力を入れている千葉大学。『skipwise（スキップワイズ）プログラム』に加えて、文部科学省の『スーパーグローバル大学創成支援』事業の採択を機に「Rising Chiba University」という名の新たな取り組みも始まっています。千葉大学ならではの取り組みと、ビジョンについて教育・国際担当理事の渡邊誠先生にお話を伺いました。



これまでの千葉大学の「グローバル大学」を目指した取り組みについて聞かせてください。

2012年4月、国際化の方針である『グローバル・キャンパス・千葉大学』を策定し、様々な取り組みを行ってきました。それ以前からもグローバル化に力を入れていましたが、より世界を先導する教育・研究を促進し、グローバルに活動する大学へと進化するため、多様なプログラムの設置や魅力ある国際共同教育の推進を行いました。

その代表例が『skipwise プログラム』です。

国立大学で唯一、高校2年生修了時点で大学に進学する「飛び入学」（先進科学プログラム）を組みこんだ画期的な教育システムです。

このほか skipwise では「国際日本学」という教育プログラムを設置。この「国際日本学」として指定された科目のうち、48単位を修得すると、卒業・修了時に修了証書を取得することができます。また、国際日本学では、「国際体験」としてインターンシップやボランティアを国内外で体験できるプログラムがあります。例えば国際空港や官公庁と協力することで、国内にいながら外国語を使い、海外の人とコミュニケーションを行う経験を積むことができます。

短期・長期を問わず、学生時代に複数回留学することも積極的に推奨しています。現在、海外大学等との協定数は350以上。これを更に強化する予定です。

その結果、千葉大学では2011年度と2012年度に留学した学生が、国立大学の中で一番多い人数となりました。現在は、2024年度までに1200人の千葉大学生が留学することを目標としています。

これらの取り組みを通して、千葉大学は着実にグローバル・キャンパスへのステップを歩み続けています。本学がグローバル・キャンパスとして育成を目指す人材は



「知識準備 (Knowledge Reserves) 高流動性 (High Mobility) 型グローバル人材」です。

「日本人は、内向きだ」といわれることがあります。私たちはそうではなく「日本人は、堅実なのだ」と考えました。

「失敗したくない。そのためにしっかり知識を身につけたい」

というのが日本人の本来の性向であり、美点だと考えたのです。世界でその美点を活かして活躍するために、大学ができることは何だろう。その答えが「skipwise」なのです。

飛び級を利用して時間を節約し、それを社会に出るまでの準備期間にしっかり使う。その期間には、世界に触れ、様々な体験をする。堅実にしっかりと知識を準備することで、海外に積極的に進出できる。それが本学の考えるグローバル人材なのです。

「スーパーグローバル大学創成支援」事業の採択を受けて、新たに始められた取り組みはありますか？

千葉大学は、2014年9月に「スーパーグローバル大学創成支援」のタイプB(グローバル化牽引型)に採択されました。

これを機に、グローバル大学から「スーパーグローバル大学」へと新生するため、『Rising Chiba University』と銘打ち、前述の取り組みの拡充に加え、多くの新たな取り組みも始めました。

その一つがこれまでは在校生を海外へと送り出すことが主目的だったのに対し、スーパーグローバル大学創成支援事業では、海外の留学生を迎え入れる取り組みにも比重がおかれるようになった点です。これにより、キャンパス内外で異文化接触の機会が増加し、千葉大学のグローバル化は一層進むことになるのです。

新生「グローバル千葉大学」が育成を目指す人材、それは「人間力」のある人材です。人間力は、以下の3つの能力を身につけることによって醸成されると私たちは考えています。

◆人間力のある人材の育成＝俯瞰＋発見＋実践

様々な事象を「俯瞰」し、そこからの新たな「発見」をもとに、エキスパートとして「実践」する人材

〔俯瞰〕 新たな学問体系をもつ教養教育で俯瞰力を身につける

〔発見〕 共同教育により新たな発見ができる能力を身につける

〔実践〕 文理生命科学融合の教育で実践力のある人材となる

これまでの文理を分けた、専門分野のみに特化した教育ではなく、経験を主体とした広く深い、ボーダレスな教育。それを経てこそ「人間力」が身につくのです。

「人間力」という言葉は昨今使われるシーンも多く、耳にした方も多いかも知れません。千葉大学が定義する「人間力」は上記の能力の融合であり、これがあれば、世界で活躍できる人材となれるのです。

そのために、2024年の千葉大学のあるべき姿をイメージして、4つの柱で改革を進めています。

◆ガバナンス改革による新生

“新”教養学部の設置

日本人学生と留学生の共学教育の拠点形成

全学教育運営支援組織の構築+ SULA^(※)

教職員機能の充実強化

(※) Super University Learning Administrator

◆学修制度の改革による新生

飛び入学の拡大

多様な入試の実施

学事暦の見直し

学内教育制度の国際標準化

◆プログラム改革による新生

「ダブルメジャー制度」によるイノベーション人材育成(「TOKUHISA SCHOOL」)

留学のための「国際教養学プログラム」設置

国際日本学の必修化

セメスター派遣・受入プログラム

大学院ダブルメジャー・メジャーマイナー・プログラム

◆グローバル・ネットワーク改革による新生

海外キャンパスの設置

アライアンス交流の推進

これまで留学などで提携してきた海外の大学機関、海外で活躍するOB・OGの情報なども活用し、新生・千葉大学は国境を越えた、まさにボーダレスなグローバル化を推し進めます。また、留学だけでなく、たとえば飛び級で貯金した時間を、大学生という身分をフルに活用して世界放浪に充てるといった、「自分が将来、世界でどう活躍したいか」を視野に入れた自主的な活動も行えるよう、バックアップ体制も整備しています。そのために、国内外から千葉大学に学びに訪れる学生の皆さんを支援する教職員向けに英会話教室を開くなど、周辺環境のグローバル化も進めているのです。これはまだ手がけていない大学も多いのではないのでしょうか。

これからの千葉大学がどう変わっていくか、数値の目標は立てていらっしゃいますか？

誰もが覚えられるよう、分かりやすいネーミングで目標を掲げています。

—753（シチゴサン）＋1（タスイチ）計画—

「7」－ 700 科目の英語での授業を実施

「5」－ 50% 入学定員の半分(1,200人)が留学

「3」－ 3,000人の外国人留学生を受入

「1」－ 10% 入学定員の10%(240人)を多様な入試で受入

10年後の千葉大学の姿ですから、これを読んでいる高校生の方は、まさに改革のさなかに入学されることになりませぬ。

この数字は、いずれも国の計画している数値の1%に当たります。日本がより一層のグローバル社会を目指し、そこで活躍する人材を育成するために必要だと考えている数値・人数の1%を千葉大学が責任を持って担い、育成しようという覚悟と意気込みの表れです。

現在、日本には約800校の大学があり、どの大学もグローバル人材の育成を急務としています。その中の1%を担うというのは、かなりの規模であり、大きな取り組みであると自負しています。

グローバル人材を育成する新生・千葉大学で経験と知識を積んだ人が、世界に散らばり活躍する。それこそが私たちがイメージしている未来。将来、世界を舞台に活躍したい方に、最適な環境を用意してお待ちしています。

インタビューに答えてくれた方



■ 渡邊誠先生
千葉大学
理事（教育・国際担当）

都立墨田川高等学校。千葉大学大学院を卒業後、セイコー電子工業（株）入社。SEIKO AVENUE、SEIKO SPIRIT の腕時計シリーズ、FOSSIL DEFENDER シリーズ、のデザインなどに携わる。同社デザイン部主任を経て、現在、千葉大学理事を務めるほか、グッドデザイン賞審査委員や国際インダストリアルデザイン団体協議会理事も務める。